

共同研究の実施概要

平川 南

1. 研究組織

研究代表者	本館 歴史研究部長		虎尾俊哉	
	氏名	所属機関・職名	役割分担	
研究 組 織	虎尾俊哉	本館 歴史研究部	教授	総括 古代の文献史学的研究
	岡田茂弘	本館 考古研究部	教授	考古学的研究
	阿部義平	本館 考古研究部	助教授	"
	福田豊彦	本館 歴史研究部	教授	中世の文献史学的研究
	平川南	本館 歴史研究部	助教授	古代の文献史学的研究
	西澤奈津子	本館 歴史研究部	助手	"
	鬼頭清明	奈良国立文化財研究所歴史研究室 (本館 客員助教授)	室長	"
	佐藤宗諄	奈良女子大学文学部	教授	"
	栄原永遠男	大阪市立大学文学部	助教授	"
	吉岡真之	宮内庁書陵部	主任研究官	"
	入間田宣夫	東北大学教養部	教授	中世の文献史学的研究
	金田章裕	京都大学文学部	助教授	歴史地理学的研究
	千田稔	奈良女子大学文学部	助教授	"
	大三輪龍彦	鶴見大学文学部	教授	考古学的研究
計 14 名	(内部 6 名・外部 8 名)			

2. 研究期間

昭和62年度～昭和64年度

3. 研究目的

第1期「古代都市の研究」で、古代の地方行政・文化の中心としての国府の成立や構造などの基本的問題を研究したが、その結果、律令期の国府域を地方都市として把握し得るか否か、もし否とすれば、どういう過程を経て地方都市は成立して来たのか、という点の解明が重要な課題として浮上して来た。そこで、第2期においては、古代国府の周辺にまで眼を向け、政治的場からだけでなく、流通や交通の側面も含めて、古代・中世の文献史学、考古学、歴史地理学、建築史などの関係諸分野による共同研究によって、地方都市形成の過程を明らかにし、併せて府中などの中世都市への展望を開くことを目的とする。

4. 研究会の実施とその成果

〔昭和62年度〕

(1) 研究会

○ 第1回研究会 6月8日 会場：国立歴史民俗博物館

今後の研究会の進め方について、討議を行い、本研究において、現地調査を積極的に実施し、上記の研究目的を具体的に明らかにすることとした。

○ 第2回研究会 9月28日 会場：国立歴史民俗博物館

研究発表 佐藤 宗諄 「古代末期の国衙」

入間田宣夫 「中世陸奥国府の都市空間」

山路 直充（市川市立博物館）

「下総国府とその周辺の考古学的調査の現状」

○ 第3回研究会 12月17日 会場：府中郷土の森

東京都府中市内の現地調査

荒井 健治（府中市教育委員会）

「武蔵国府とその周辺の考古学的調査の現状」

義江 彰夫（東京大学）

「遠江国府と磐田市一の谷遺跡」

(2) 研究成果

上記の3回の研究会を通じて、古代および中世の国府の中核およびその周辺の諸機能について、文献史学・考古学および歴史地理学的側面より、具体的に即して明らかにすることができた。とくに本研究計画の主眼とする地方都市形成の諸条件について、具体的に交通・水利および都市規制の問題など各共同研究員の現地調査や合同の府中市内の現地調査で一定の見通しを得ることができた。また、陸奥国府や遠江国府の例から、中世における国府域の設定および交通・市さらに霊域などの都市空間の形成の一端を明らかにすることができ、今後古代国府との関連を考えてゆく上で、重要な示唆を得ることもできた。

〔昭和63年度〕

(1) 研究会

- 第1回研究会 5月30日 会場：国立歴史民俗博物館
研究発表 米原永遠男 「国府交易圏をめぐる諸問題」
千田 稔 「難波津と摂津国府」
- 第2回研究会 9月26・27日
現地見学 下野国府跡およびその周辺
研究発表 小川 信 (國學院大学)
「下野の国府と府中について」
田代 隆 (栃木県文化振興事業団)
「下古館遺跡の発掘調査について」
木村 等 (栃木市教育委員会)
「最近の下野国府跡の発掘調査の成果について」
- 第3回研究会 12月23日 会場：国立歴史民俗博物館
研究発表 松原 弘宣 (愛媛大学)
「地域的交易圏と水上交通」
金田 章裕 「古代・中世における讃岐の景観と土地計画」
- 第4回研究会 3月6日 会場：国立歴史民俗博物館
研究発表 大三輪龍彦 「都市鎌倉の道と地域」
河野真知郎 (上智大学非常勤講師)
「最近における鎌倉の発掘調査の成果について」

(2) 研究成果

上記の4回の研究会を通じて、古代および中世の国府の中枢および周辺の都市的諸機能について、文献史学・考古学および歴史地理学的側面より究明することができた。とくに本研究計画の主眼とする地方都市形成の諸条件について、具体的に国府を中心とする地域交易圏、古道および津・河川などの機能の研究発表や下野国府跡およびその周辺地域の現地調査で一定の見通しを得ることができた。また国府から府中への重要テーマについても、外部研究者の協力を得て、問題の核心に迫ることができた。

〔平成元年度〕

(1) 研究会

- 第1回研究会 6月12日 会場：国立歴史民俗博物館
研究発表 倉住 靖彦 (九州歴史資料館)
「都市空間としての大宰府」
入間田宣夫 「“柳の御所”の発掘と平泉の都市空間」

- 第2回研究会 10月2日 会場：国立歴史民俗博物館
研究発表 堀内 明博（京都市埋蔵文化財研究所）
「平安京の調査成果と展望」
研究報告の作成について
- 第3回研究会 12月18日
現地調査 一周防国府跡およびその周辺
周防鑄銭司跡
12月19日
大林 達夫（防府市教育委員会）
「周防国府跡の発掘調査の概要」
吉瀬 勝康（防府市教育委員会）
「周防国府跡における平安後期の遺構・遺物」
12月20日
現地調査 一長登銅山跡
- 第4回研究会 平成2年3月19日 会場：国立歴史民俗博物館
シンポジウム 「古代地方都市の形成について」
基調報告 吉岡 真之 「平安後期の国衙について」
府中市教育委員会 「武蔵国府とその周辺」
虎尾 俊哉 「古代都市に関する諸問題」

〈研究成果の概要と反省〉

過去3か年の共同研究を通じて、古代と中世の国府およびその周辺における都市的諸機能について、文献史学・考古学および歴史地理学的側面より究明することができた。とくに本研究計画の主眼とする地方都市形成の諸条件——具体的に国府を中心とする地域交易圏、古道および津、河川などの機能さらには水利、宅地、および都市規制の問題など——について、研究会や下野国府跡・武蔵国府跡・周防国府跡およびその周辺地域の現地調査で検証を行い、一定の見通しを得ることができた。また、古代・中世を通じての陸奥国府・遠江国府や中世都市としての鎌倉などの例から、中世における国府域の設定および交通・市さらに霊域などの都市空間の形成の一端を明らかにすることができ、今後古代国府との関連を考えてゆく上で重要な示唆を得ることができた。しかし、従来、古代の地方都市に関する研究はほとんど蓄積がなかなただけに、3か年の半分近くはその形成過程の諸条件についての問題整理と基礎的研究に終始せざるをえなかった。したがって、残された問題も少なくない。

例えば、人口動態・住居形態・技術の集積・祭祀形態など、都市形成をみてゆくうえで大きな

指標となる数多くの問題が未解決のままである。これらの条件は比較的豊富な資料をふまえないと容易に解明できないだけに、今後の考古学的調査成果などにもとづいて分析を加えなければならぬ。また、都市とその周辺の集落とを対比させ、その相違点を抽出する作業も残された重要な課題である。こうした総合的な検討を経た上で、古代の地方都市の景観復元を試みなければならぬであろう。